TERAKOYA project

岡山とネパールを繋ぐ
環境問題啓発・学習支援・女性の収入向上
のためのプロジェクト

ネパールとの文化交流を通じて
より良い多文化共生社会の推進を目指す

ダフェプロジェクト

事業概要

1.　TERAKOYA学習塾

コミュニティー学習塾支援事業

2016年3月に催行されたダフェプロジェクトのネパール震災支援ツアーでのTERAKOYA学習塾交流

ビジョン

現地NGOとコミュニティで運営するNPO学習塾を通じて、親の低学歴及び経済状態により補習機会のない子供に補習の機会をあたえる。

1. TERAKOYA学習塾（コミュニティー学習塾支援事業2015. 7）

TERAKOYA学習塾誕生の物語

ネパール大震災による被災者が暮らす避難テント村（カトマンズ市チュッチェパティ2015年5月撮影）

ネパール大震災から3カ月。緊急支援がひと段落ついた頃。震源地から避難してきた家族と地元の貧困世帯の子供たちの、震災時の混乱によって遅れた学習状況を改善する必要があることに気が付いた現地NGOビジェタエココミュニティーの代表は自身が所有している倒壊した古い家屋を修復して子供のシェルターを作りました。

2015年7月24日から試験的に始められていた子供シェルターを「TERAKOYA学習塾」と命名し、2015年8月4日に開塾式をしました。

運営には地元の大学生たちも有料ボランティア教師として協力してくれています。彼らに支払われる謝礼もまた、彼らが通う大学の学費にあてられます。

子供達はTERAKOYA学習塾でその日学校から出された宿題を終わらせて家に帰ります。貧困世帯の子供の両親は幼少時学校に通っていなかった人も多く、簡単な内容の宿題さえ見てあげることが出来きませんでした。

貧困による子供たちの学力差をなくし子供が持つ可能性や才能を伸ばしながらこの地域の未来のリーダーを育てていくことこそコミュニティー運営による無償学習塾の大切な役目です。

ダフェプロジェクトは
TERAKOYA学習塾の支援をすることを決めました。

2. 縁筆（えんぴつ）プロジェクト

再生新聞紙鉛筆の販売や制作ワークショップを通じた募金活動事業

縁筆募金の呼びかけチラシ

縁筆募金の仕組みの説明チラシ

ビジョン

ネパール製再生紙鉛筆の販売や鉛筆づくりワークショップを通じてTERAKOYA学習塾の継続可能な支援資金調達を目指す。副産物として国際理解や環境問題の学習のきっかけづくりのアイテムとして周知されるようになる。

2. 縁筆プロジェクトNepal　縁筆配布事業（2015.8～）

2015年7月。新聞紙で鉛筆を作るという事業で社会起業した女性たちの会社と知り合いました。そこには未亡人や障がいのある女性たちが働いていました。彼女たちもまた被災して経済的に困窮していました。新聞紙鉛筆を購入することでTERAKOYA学習塾を支援する仕組みが作れないものかとダフェプロジェクトは考えました。

ご縁でつながる世界の仕組み　13

2015年8月。ネパール雑貨ブランド「ブランカモンティーノ」のコーディネートで、日本の方から託された義援金で新聞紙鉛筆を購入し、支援者の名前とメッセージを印刷したラベルを貼った「TERAKOYA縁筆」をつくり、被災した子供たちに配りに行くことから始めました。

ご縁でつながる世界の仕組み　15

"新聞紙で出来ている鉛筆なんてはじめてみた"

左：カトマンズの肢体不自由児の寄宿舎にて（2015年8月）
右：スンダリジャルにある公立学校にて（2015年8月）
20・21ページ：バッテダンダ村の学校にて（2015年9月）

16　ご縁でつながる世界の仕組み

2. 縁筆プロジェクトJapanワークショップ事業（2016.3～）

縁筆ワークショップがつなげる世界の物語
日本編

岡山の学童保育で行われた縁筆ワークショップ
（2016年3月）

22　ご縁でつながる世界の仕組み

日本の子供たちにネパールのお話をしながら紙鉛筆を作るワークショップを行いました。
左：熊本益城町の学童で縁筆WS（2016年5月）
右上段：福島いわき市で縁筆WS（2016年12月）
右下段：大阪府十三ゆるらかふぇで縁筆WS（2016年8月）

24　ご縁でつながる世界の仕組み

24　25

左上段：北九州で行われた縁筆WS（2016年11月）
左下段：東京成増で行われた縁筆WS（2016年5月）
右：岡山フェアトレードデーで行われた縁筆WS
（2016年5月）

ご縁でつながる世界の仕組み　27

鉛筆は大人も子供もお年寄りも日本人も外国人も
誰でも使えるユニバーサルな文房具です。
縁筆作りを通じて
やさしい世界がつながっていきました。

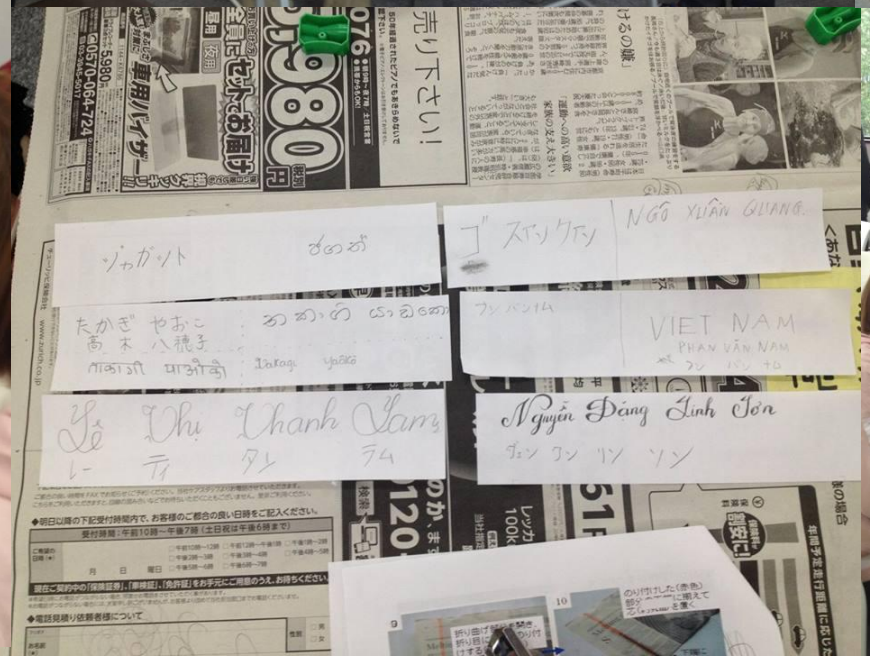
28　ご縁でつながる世界の仕組み

自分で作った「世界で一つの鉛筆」で
誰に何を伝えるかも
縁筆プロジェクトの大切なテーマです。

ご縁でつながる世界の仕組み　29

26　27　28　29

2. 縁筆プロジェクトJapan　留学生縁筆インストラクター養成教室（2017.5）



3. TERAKOYA縫製訓練教室

地域の女性に縫製技術を習得してもらい
自立を促す事業

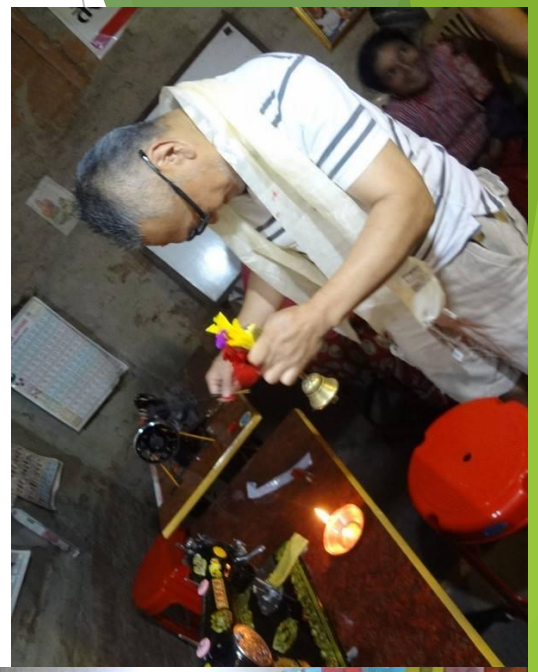
縫製教室開室式の様子

乳がん自己検診教室の様子

ビジョン

TERAKOYA学習塾内に女性対象の縫製訓練教室を併設することにより、家庭の貧困問題を解決する糸口や、成人住民に対する生涯学習の機会を提供する。

3. TERAKOYA縫製訓練教室（女性の経済自立事業2016.9～）



TERAKOYAプロジェクトの今後の発展計画

1.　TERAKOYA学習塾

TERAKOYA学習塾の
一部有料化（2017.7～、）

TERAKOYA奨学金制度の創設
（2018.3～）

2017年9月28日　TERAKOYA学習塾に通う生徒の家庭訪問をするスンダリミカ

2015年7月以来無料であったTERAKOYA学習塾の月謝を、2017年7月より生徒一人につき毎月100rs(約110円）を徴収することにする。毎月の運営費の支援を終了し、2018年3月からTERAKOYA学習塾に通う学童を対象にした奨学金を創設し引き続き学習支援を続ける。

2. 縁筆（えんぴつ）プロジェクト

地元の留学生を縁筆講師にしたワークショップ教室を提唱・実施（2017.11～）

国際交流や多文化共生に関する特別授業やイベントで縁筆ワークショップを採用してもらえるように各機関や企業に働きかける。ワークショップは助成金や協賛金で運営し、参加費の一部や募金箱に寄せられたお金をTERAKOYA奨学金にあてる。

3. TERAKOYA縫製訓練教室

TERAKOYA縫製教室で学ぶ女性達

簡単な縫製は第一回教室運営期間で各自習得済み、第二回縫製教室ではパターンのおこし方、裁断の仕方を学ぶ予定。1回目の教室は道具費実費のみ徴収していたが、2回目からは生徒と協議のうえ受講料を決め、徴収する。教室の全過程終了後は学校の制服などの縫製を現地NGOが斡旋し、工賃の一部をTERAKOYAの運営費に充てる。

TERAKOYAプロジェクトの成果の実例

2015年7月4日震災後に部屋を失い家具屋の倉庫で暮らしていたプレムの父親を8月から肉屋として開業させた。

プレム：
TERAKOYA学習塾の先生は分かりやすく教えてくれます。塾でわからないことをわかるようになってから、学校に行きます。

プレムの母親：
いちいち勉強しなさいと言わなくても勉強するようになったし、教育を受けていない私達が教えられないことも、塾の先生にきいて解決しているようです。

2017年9月28日に家庭訪問。2人の子供は2017年4月から私立学校に通い始めた。

ご清聴ありがとうございました。

TERAKOYAプロジェクト　プロジェクトコーディネーター　スンダリミカ

ダフェプロジェクト　江見優子